

道

2021年10月1日
(第74号)



妙見山本住寺より北を臨む——写真
の下側が遠田地区（下左端に我が家
の屋根が少し見える）。中央が小田川
堤防、その向こうに箭田の町並み。

▼Aさんは脳梗塞後で、麻痺側の足に装具を着け、歩行器で移動していた。改修したトイレに自分で行けた。ところが、徐々に心身機能が低下してくる。排泄の失敗が増え、物忘れが進んだ。どうしたらいいのか、本人も家族も悩む。▼Aさんには「在宅」へのこだわりがある。半世紀以上住んできた所には多くの「物語」が詰まっている。自分の家で暮らし続けたい。家族も本人の気持ちを大事にしようと思案する。しかし「家では無理、施設へ」となってしまふ。そこにはそれなりの事情がある。本人も「迷惑をかけたくない」と思う。▼Aさんだけの話ではない。施設などに入れば「安心」「安全」に暮らせるからと、本心を抑えて入所する人は少なくなっている。そして、施設で生きる張り合いを無くしてしまったような人を多く見てきた。▼僕はここで施設不要を唱えるのではない（ある意味で施設は必要と思っている）。別のことを言いたいのだ。Aさんが自分でトイレに行けなくなったように、老いれば、できていたことができなくなる。その際、「自分でできるように」の発想には限界がある。「依存」を考え直す。目が悪ければ眼鏡に依存するように、何かに、誰かに、依存する。周りはその依存に応え本人の願いに添って支える。依存先は多ければ多いほどよい（※）。▼Aさんの依存先は「施設」だけなのだろうか。もしそうなら、悲しく辛い。しかし、これが、日本高齢社会の現実かもしれない。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也

※ 熊谷晋一郎の「自立」と「依存」論を参照



小田川の朝（宮田橋より西方面）